

記述的／命令的規範志向尺度（DINPS）

【教示】

以下では日頃のあなたの考えや行動についてお尋ねします。

それぞれの文の内容が自分にどの程度あてはまるかをお答えください。

第1因子 述的規範志向：記述的規範からの逸脱懸念 25 項目

		まったくあまりあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	よくあてはまる
1	みんなと同じ行動をしたい					
2	周囲と同じ行動をしないと恥ずかしい					
3	周りの人と違ってないか不安になる					
4	みんなと同じことをしたい					
5	周りの人のふるまいを見て同じようにしたい					
6	みんながしていることからずれないように気をつける					
7	みんなと同じ行動をしていないと不安だ					
8	周りの人と同じだと安心だ					
9	多くの人がしていることに合わせたい					
10	人と違うことは恥ずかしくてできない					
11	周囲から浮いてないか気になる					
12	他の人と違うと緊張する					
13	気がつくとき周りの人と同じような行動をしている					
14	多くの人がしている行動には合わせる方がよい					
15	周りの人がしていることに合わせておけば間違いはない					
16	みんながどうしているか見ずにはいられない					
17	とりあえず周囲の人と同じ行動をとっておけば問題ない					
18	とりあえず周りの人と同じ行動をすることが多い					
19	自分の意見と違っても、多数派の人々の意見には従う方が無難である					
20	みんな足並みをそろえた方がよい					
21	周りの人の様子が気になる					
22	本心はさておき周りと同じようにふるまう方がよい					
23	みんなと違う行動をしている人は軽蔑する					
24	周りの人の行動につい目がいつてしまう					
25	周囲から外れた行動はしたくない					

第2因子 命令的規範遵守志向：命令的規範への敬意 17項目

1	規則やルールは守るようにしている					
2	規則やルールは守る方がよい					
3	規則やルールはみんなが心地よく暮らす上で重要だ					
4	社会的に正しい行動をしたい					
5	規則やルールを守るのは当たり前だ					
6	規則やルールを破るのはよくない					
7	規則を守らない人には怒りを感じる					
8	慣習やしきたりを無視するのはよくない					
9	混乱が起きないように決まりごとを作りたい					
10	規則やルールを破ることには罪悪感がある					
11	昔からの慣習には何らかの意味がある					
12	古くからの慣習には今の時代に合わないものも多い					
13	価値のない規則もある					
14	規則やルールがあると安心だ					
15	規則やルールを守っていないと違和感がある					
16	規則やルールは人が生活する上で必要ない					
17	守るべき規則やルールに敏感だ					

第3因子 反因習主義：命令的規範への嫌悪 13項目

1	慣習やしきたりには従いたくない					
2	慣習やしきたりにはこだわらない					
3	昔ながらの慣習やしきたりは息が詰まる					
4	慣習やしきたりには縛られたくない					
5	規則やルールに縛られるのは嫌だ					
6	みんなと同じ行動をとるのは嫌だ					
7	昔ながらの慣習やしきたりは好きではない					
8	慣習やしきたりを守れているかはどうでもいい					
9	慣習やしきたりを破っても気にならない					
10	慣習やしきたりは気にしない					
11	規則やルールなどくそくらえだ					
12	規則やルールを守ることにストレスを感じる					
13	自分が正しいと思えば世のしきたりに反しても、それを押し通すべきだと思う					

妥当性項目

1	ふつうでありたいと思う					
---	-------------	--	--	--	--	--

【実施上の注意】

実施に際しては、各下位尺度のすべての項目を含めて提示順序をランダム化する。デジタルで実施する場合であれば回答者ごとのランダム化を推奨するが、紙面による実施の場合はサンプルごとのランダム化で構わない。最小限であれば3下位尺度55項目を使用すればよい。ただし、妥当性尺度「ふつうでありたいと思う」を併せて使用して各下位尺度との相関を検討することを推奨する。

【対象者】

一般成人。尺度開発の際のサンプルは20-59歳であったが、項目内容を考慮すれば少なくとも18歳以上では適用可能と思われる。

【採点方法】

逆転項目は設定されていない。各項目の回答を「まったくあてはまらない」：1点、「あまりあてはまらない」：2点、「どちらともいえない」：3点、「ややあてはまる」：4点、「よくあてはまる」：5点として、下位尺度ごとに合計得点（単純和）を算出し、各下位尺度得点とする。各下位尺度の得点可能範囲は、第1因子：25-125点、第2因子：17-85点、第3因子：13-65点である。-

【使用許諾】

非営利の学術研究目的に限り自由に使用して構いません。事前許諾は必要としませんが、研究成果を公表する際は出典を必ず明記し、公表先（発表学会、学術論文誌名など）を開発者までご一報ください。

【出典・関連論文】

Kuroishi, N. & Sano, Y. (2019). Measuring personal attitudes toward social norms: Development of the descriptive/injunctive norm preference scale (DINPS). In C. Pracana & M. Wang (Eds.), *Psychology Applications & Development V* (pp. 55–64). Lisboa, Portugal: inScience Press.

黒石憲洋・佐野予理子（2023.09） 社会的比較における感情状態に影響を及ぼす個人差要因：記述的／命令的規範選考尺度を用いた検討 日本心理学会第87回大会ポスター発表